

第61回 全国公立学校教頭会研究大会 滋賀大会参加報告

令和元年度『第61回 全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会』が7月31日（水）～8月2日（金）の3日間、大津市「びわ湖大津プリンスホテル」を主会場に『豊かな人間性と創造性を育み未来を拓く学校教育』を大会主題として開催された。

1日目は開会行事に引き続きシンポジウムが行われ「身近な環境との関わりを通じ持続可能な社会の担い手となる子供の育成」について提言をいただいた。2日目は10分科会が5会場に分かれ行われ、3日目は写真家の今森光彦氏による「琵琶湖水系の美しい自然」と題した記念講演が行われた。引き続き閉会行事が行われ大会を終えた。

2日目に参加した第4分科会では、「組織・運営に関する課題」について、教職員の資質・能力の向上を目指した教頭の果たすべき役割や関与の在り方を中心に議論を深めた。

滋賀県大津市小中学校教頭会からは、「学校の組織力を高める教頭の役割」についての研究であった。生徒が学ぶことの楽しさや喜びを実感できるような授業をめざして校内研究を積み重ね、授業の中でペアやグループ学習を積極的に取り入れ、生徒同士が学び合い、理解を深めるようにしていた。教師が一方通行的に知識を教えるのではなく、生徒自らが主体的に考える授業づくりを目指すものであり、教師が主体となる授業から、生徒が主体となる授業へと指導観を大きく転換するものであった。教頭の役割として（1）整理・見える化（2）生徒が主体となる指導観の活用（3）発信と共有（4）教職員の力量の向上の4点に取り組んでいくことにより、生徒が主体となる指導観に基づき、教育目標の具現化を図るこのとの大切さを感じた。

和歌山県紀美野町教頭会からは、「小規模校における学校活性化を目指した取組」についての研究であった。地域とともにある学校「きのくにコミュニティスクール」を2019年度末までに県内すべての公立学校へ導入し、学校と地域・家庭が連携・協働して学校づくりを進める取組を推進していた。紀美野町においても、平成30年度に中学校区を単位とした学校運営協議会が設置され、教頭として「活力ある学校」づくりを進めていくため、地域や家庭、校種間の連携をいかに進めていくべきか、また、どのような役割を果たすべきかを研究の目的にしていた。地域や保護者と連携した事業の推進により、地域の方々の学校に対する理解が深まり、保護者や学校とのつながりが強くなる。また、地域の方々の様々な体験交流活動は、地元の魅力の再発見や地域コミュニティづくりにもつながり、子供たちの地域への愛着が深まることを感じた。

岡山県小田郡小中学校教頭会からは、「学校小規模化に伴う課題を克服する取組」についての研究であった。近年の急速な少子化と若手の増加による人材育成のために合同授業に取り組んでいた。学校間の調整役としての教頭の役割が非常に重要であることを感じた。

この分科会から生徒が学ぶことの楽しさや喜びを実感できる授業づくりを行うための教頭の役割が重要性和活力ある学校づくりを進めていくために、地域や家庭、校種間の連携が重要性を感じた。

3日目の記念講演では、地域の実情を踏まえた話、写真の紹介の中には、環境の保全の大切さはもとより琵琶湖への愛着と児童生徒の良さに目を向ける姿勢や視点が重なり考えさせられた。閉会行事では、研究の総括がなされた。

この大会で共有されたさまざまな知によって、これからも学び続ける感性を研ぎ澄まし、教頭としてやるべきこととやりたいことの両立に努めていきたいと感じた。

（大和中学校 武井 俊文）